

### 社会福祉法人愛篤福祉会は、利用者さんが安心して暮らせる施設づくりを目指します

#### 偲ぶ会が執り行われました

十二月二十日、工房阿列布にて前理事長 故 遠藤節子さんを偲ぶ会がご遺族、友人、役員、評議員をはじめ保護者、職員、利用者さんのご列席を頂き執り行われました。

お別れの挨拶は、参列者を代表して、長谷川雅子さんと利用者の平澤桂子さんから、遠藤さんとの思い出や理事長として「親亡き後の施設」の一つの形としてグループホームを開所したこと、「東日本大震災と福島第一原発事故」の対応として北海道に法人独自の避難所を造ったことなど理事長としての取り組みが紹介されました。

スライドショーでは、在りし日の故人の姿が映し出され各々が故人との思い出を振り返ることが出来ました。

また、津軽三味線奏者でもある新理事長の阿部洋介から故人の故郷の曲、「江差追分」が献奏され、参列者皆で故人の冥福を祈りました。



#### 神様がくれた時間、そしてこれから

工房阿列布 管理者 坂井 達雄

前理事長とは家族ぐるみの付き合いがありました。

私が、理事長としての遠藤節子の姿をはじめ、私たちが一緒に過ごした時間は、入職二日目、同席した職員会議で、自立支援法に伴う利用料の割負担について、どうすれば利用者さんと保護者さんが納得し安心して事業所に通ってもらえるか烈火のごとく激を飛ばしている姿でした。仕事について間もない私にも、この職場が理事長の熱意で支えられている事だけは、その瞬間に知ることが出来ました。面接の時に、「私が死んだ後も真史が安心して過ごせる所を造りたい」と言っていた言葉の思い出します。理事長として母としての強い信念の炎がこもった言葉でした。一度、その信念が折れかかる瞬間を見たのはその六年後。二〇一一年三月十一日・東日本大震災の時でした。あの時、事業所の存続が危ぶまれる状況の中、施設の建設予定地の土地に何か所もの大きな亀裂が刻まれ、後日原発建屋が爆発した時、あの時始めて、理事長が絶望をした顔を見たような気がします。それでも、二週間後には「利用者さんと家族の為に終の棲家を造る」と宣言していました。これは法人が今も継続している目標です。出来る形は当初のものとは違うかもしれませんが、震災以降はずっとその目標に向かって歩み続けて来ました。道はまだ半ばです。それでも、残された私達には繋いでいく責任と達成するための努力が必要です。

我が子の未来の為に立ち上げた小さな団体が、今では社会福祉法人として二十年を越えてこれからは成長していくという、信念が結実した形を成した理事長の思い・・・別れがこんなに早く来るとは思っていました。今まで本当にありがとうございました。

#### 沙羅の会様からの「ご寄附

十二月二十日に行われたクリスマス会の席上、沙羅の会 会長 曳地令子様より阿部理事長にご寄附の目録贈呈がなされました。

沙羅の会様からは毎年、その年に得られた会費収入から必要経費を除いた額のご寄附を頂いております。

令和七年分は、金一〇万六四六六円です。

沙羅の会の会員の皆さまありがとうございました。

法人が進める施設整備などに大切に使用させていただきます。



#### 感染症に注意しましょう

これからの時期は、気温も低く空気も乾燥します。

インフルエンザや新型コロナなどの呼吸器系の感染症やノロウイルスやロタウイルスなどの感染性の胃腸炎などが流行る時期でもあります。

規則正しい生活を送り体調管理に注意しましょう

<寄付・物品寄贈の皆様> 渡辺和子 様、根本フク子 様、石動弘子 様、深谷典子 様、田辺民子 様、沙羅の会 様、小野美津子 様

秋祭り実行委員会 様、株式会社不二代建設 様、株式会社アクティ建築設計 様、有限会社モウエハウジング 様、長谷川雅子 様

高木建築デザイン 様、箱崎和雄 様、株式会社テンミールいわき 様、酒井晴美 様

<順不同です>

ありがとうございました。